

トマトキバガによるトマト苗への食害を確認

～発生を確認したら、直ちに薬剤防除を開始しましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

1) トマト栽培ハウスの外でのフェロモントラップ調査（令和5年5～12月）

令和5年6月に県中央部で初めてフェロモントラップに成虫の誘殺が確認（令和5年6月30日特殊報第1号発表）され、その後、誘殺数は県北部、県中央部、県南部の各地点とも10月が最も多くなり、県中央部では12月には終息した（図-1）。

2) トマトの本圃での発生状況調査（令和5年7～11月（夏秋作型）、令和6年3月（周年作型））

トマトの本圃での発生状況を調査したところ、県北部、県中央部、県南部とも幼虫による食害が確認された。全県の15地点中11地点で食害葉が確認され、8地点で被害果が確認された（表-1、図-2、3）。

3) トマト栽培終了後のハウス内でのフェロモントラップ調査（令和6年1月中旬～3月上旬）

トマト栽培終了後のハウス内（冬期間もビニールで被覆）において、令和5年に本虫の発生が確認されなかった地点では、冬期間のフェロモントラップへの誘殺は0頭だったが、令和5年に本虫の発生が確認された地点では、冬期間でもフェロモントラップに継続的な誘殺があり、合計で200頭以上となる事例があった（表-2）。

4) トマト育苗期の発生状況

令和6年3月15日に1地点のトマト育苗ハウス（自家育苗）で、トマト苗の子葉と本葉に幼虫による食入痕が確認された。食害が進むと、生長点の枯死も見られた（図-4、5、6、7）。

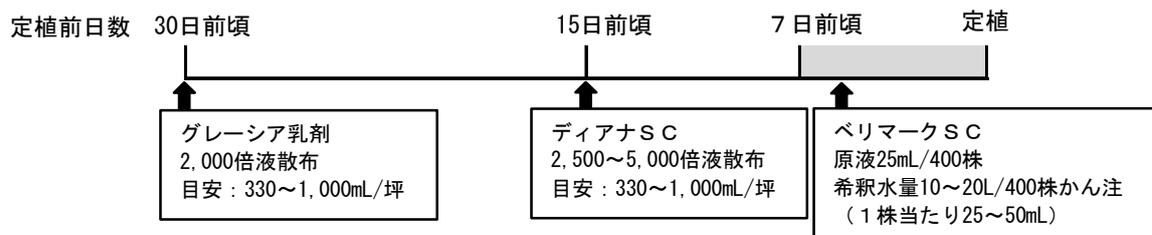
5) 以上のことから、育苗期から県内広域でトマトキバガが発生することが予想される。特に、冬期間もビニールで被覆しているハウスにおいて、令和5年に本虫が発生した場合は注意が必要である。苗から本圃へ本虫が持ち込まれた場合、被害が継続して拡大することが懸念されるため、防虫ネットを設置するとともに、発生を確認したら直ちに、薬剤防除を開始する。

2. 防除対策

1) トマト栽培ハウスでは、開口部全てに防虫ネット（目合い0.8mm以下）を設置し、トマトキバガのハウス内への侵入を防ぐとともに、ハウス外への逃げ出しを防ぐ。

2) 葉の食害の有無をよく観察し、発生を確認したら直ちに、次の薬剤防除の例を参考に、定植30日前頃にグレーシア乳剤、定植15日前頃にディアナSCを散布する。さらに定植7日前頃から定植当日までの間にベリマークSCをかん注する。なお、植物防疫法第29条第1項に基づく防除は終了したため、必ず登録薬剤を使用する（表-3）。

【薬剤防除の例】



※育苗期間中の農薬の使用回数も、栽培期間全体での使用回数にカウントされる。

※ミニトマトにおいても、本防除例を参考にする。

3. 資料

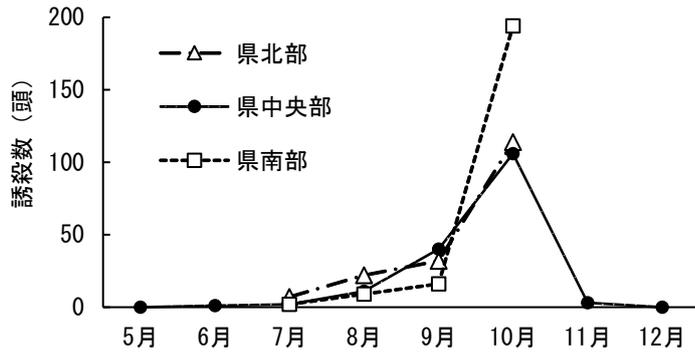


表-1 トマトの本圃での発生状況調査結果

	調査地点数	食害葉発生地点数	被害果発生地点数
県北部	3	3	2
県中央部	2	1	1
県南部	10	7	5
合計	15	11	8

※フェロモントラップ調査で誘殺を確認した市町村及びトマトキバガ発生の通報があった市町村を対象にして調査を行った。

図-1 トマト栽培ハウスの外でのフェロモントラップ調査による成虫の誘殺数 (各部1地点)

※調査期間：県中央部5～12月、県北部・県南部6～10月

表-2 トマト栽培終了後のハウス内 (冬期間もハウスビニールを被覆)でのフェロモントラップ調査による成虫の誘殺数

	(頭)					
	1月下旬	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	合計
R5 トマトキバガ発生あり	53	50	64	43	28	238
R5 トマトキバガ発生なし	0	0	0	0	0	0



図-2 トマトの食害葉 (本圃)



図-3 トマトの被害果 (本圃)



図-4 トマト苗での食害葉 (育苗期)



図-5 トマト苗での食害による生長点の枯死 (育苗期)



図-6 トマトキバガ成虫（参考：体長約5～7mm）
（左：トマト苗上に静止する成虫、右：フェロモントラップに誘殺された成虫）

図-7 幼虫
（参考：終齢幼虫約8mm）

表-3 トマトとミニトマトのトマトキバガに登録のある農薬

IRAC コード	農薬名	使用時期	希釈倍数、使用量	散布液量	使用方法	本剤の使用回数
28	ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	400株当り25mL	400株当り10～20L (1株当り25～50mL)	灌注	1回
28	ブリロツン粒剤オメガ	育苗期後半～定植時	2g/株		株元散布	1回
13*	コテツフロアブル		2,000倍			3回以内
6	アフファーム乳剤		2,000倍			5回以内
UN*	ブレオフロアブル		1,000倍			2回以内
28	フェニックス顆粒水和剤		2,000倍			2回以内
22B	アクセルフロアブル		1,000倍			3回以内
5	ディアナSC	収穫前日まで	2,500～5,000倍			2回以内
28	ベネビアOD		2,000倍	100～300L/10a	散布	3回以内
未・5	ダブルシューターSE		1,000倍			2回以内
30	グレーシア乳剤		2,000倍			2回以内
5	ラディアントSC		2,500～5,000倍			2回以内
28	ヨーバルフロアブル		2,500倍			3回以内
11(A)	エスマルクDF	発生初期 但し、収穫前日まで	1,000倍			-

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>